

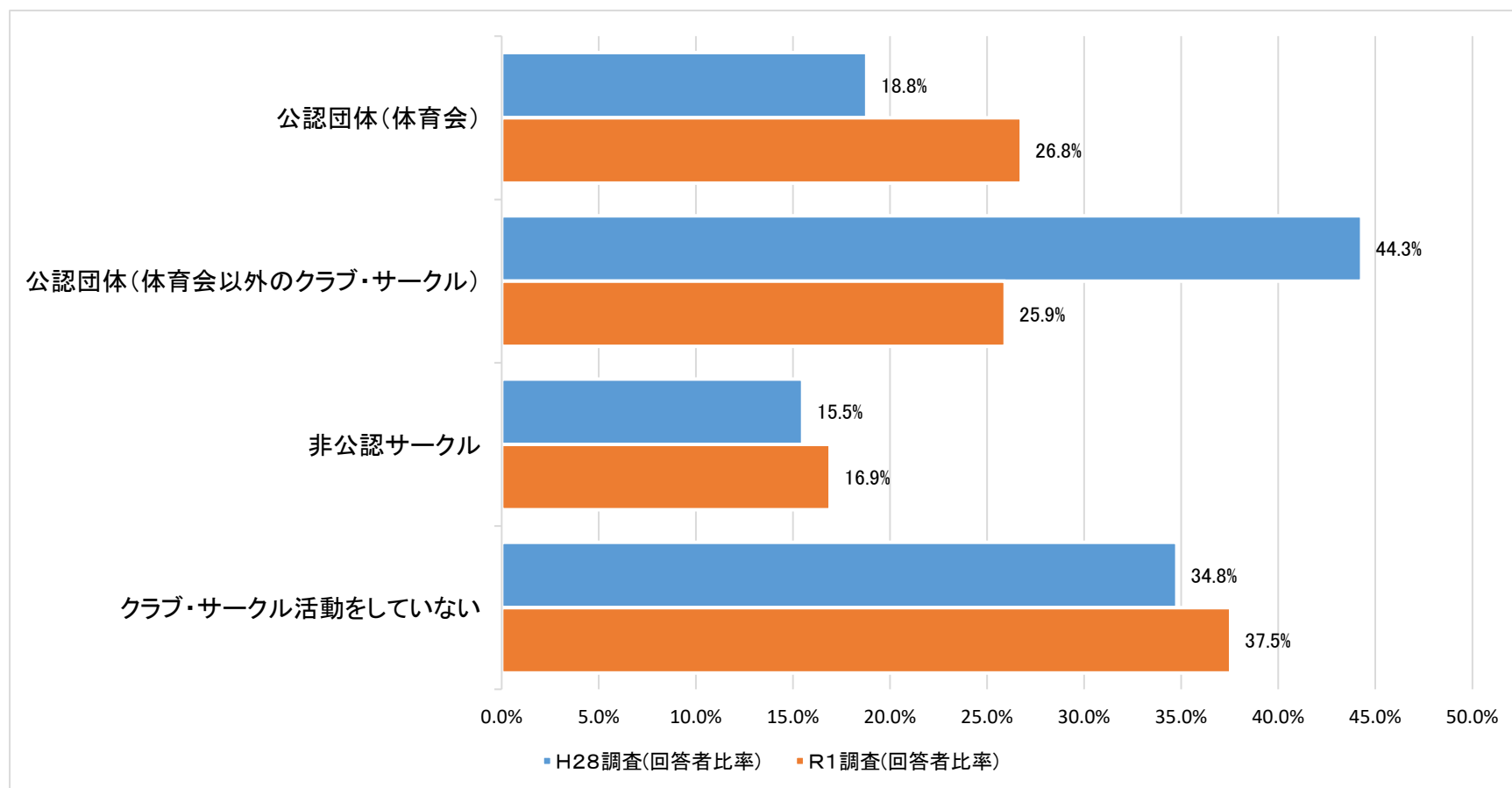
2 課外活動 〔サークル活動について〕

- Q4 大学で何かクラブ・サークル活動をしていますか。
- Q5 クラブ・サークル活動の主な加入の動機・目的
- Q6 1週間に何日クラブ・サークル活動をしていますか。
- Q7 自身におけるクラブ・サークルと学業との関係
- Q8 クラブ・サークル活動をしていない主な理由

Q4 大学で何かクラブ・サークル活動をしていますか。

7割近くの学生がクラブ・サークル活動に参加しており、参加割合は依然多い傾向にある。
また、体育会への参加が2割を超え競技スポーツとして行う学生の割合の高さが浮き彫りになった。
なお、不参加学生が3割を超えていることから、正課外教育を考え直す必要もある。

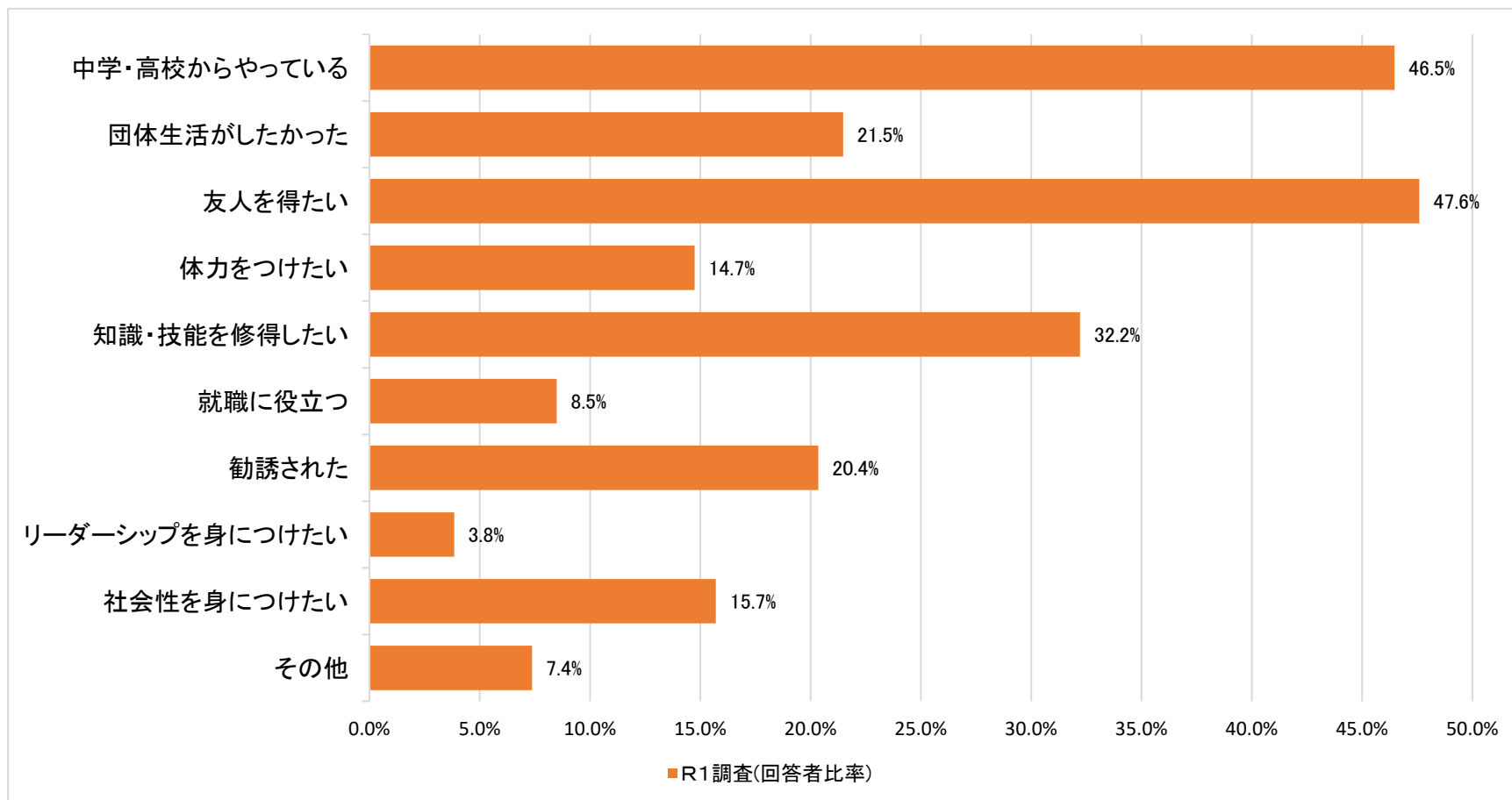
※複数回答



Q5 クラブ・サークル活動の主な加入の動機・目的

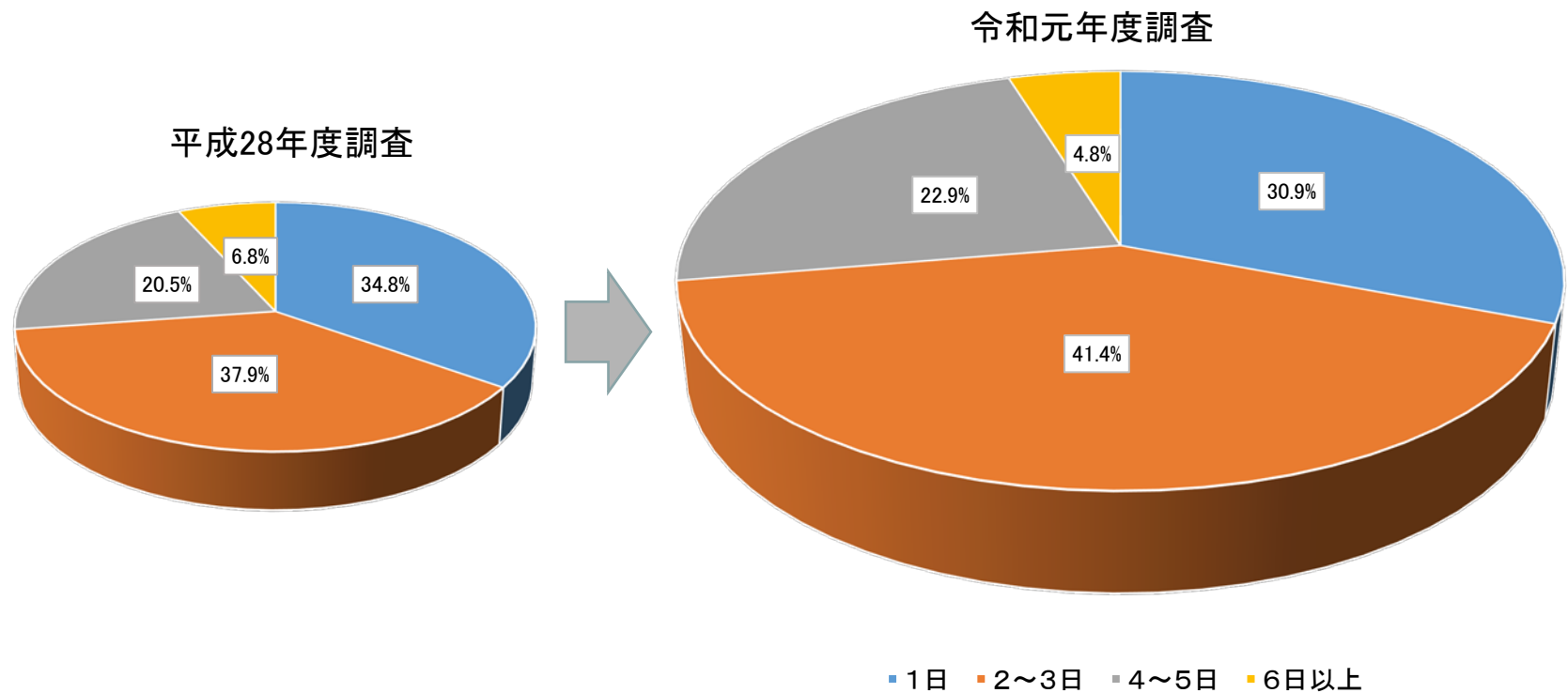
クラブ・サークル活動への参加の動機としては中学校高校からの継続(46.5%)や友人を得たい(47.6%)を理由に挙げる学生が半数近くになった。友人関係以外の2次的な理由を挙げる学生はそれほど多くはなく、本学学生の気質が伝わる結果となった。

※複数回答



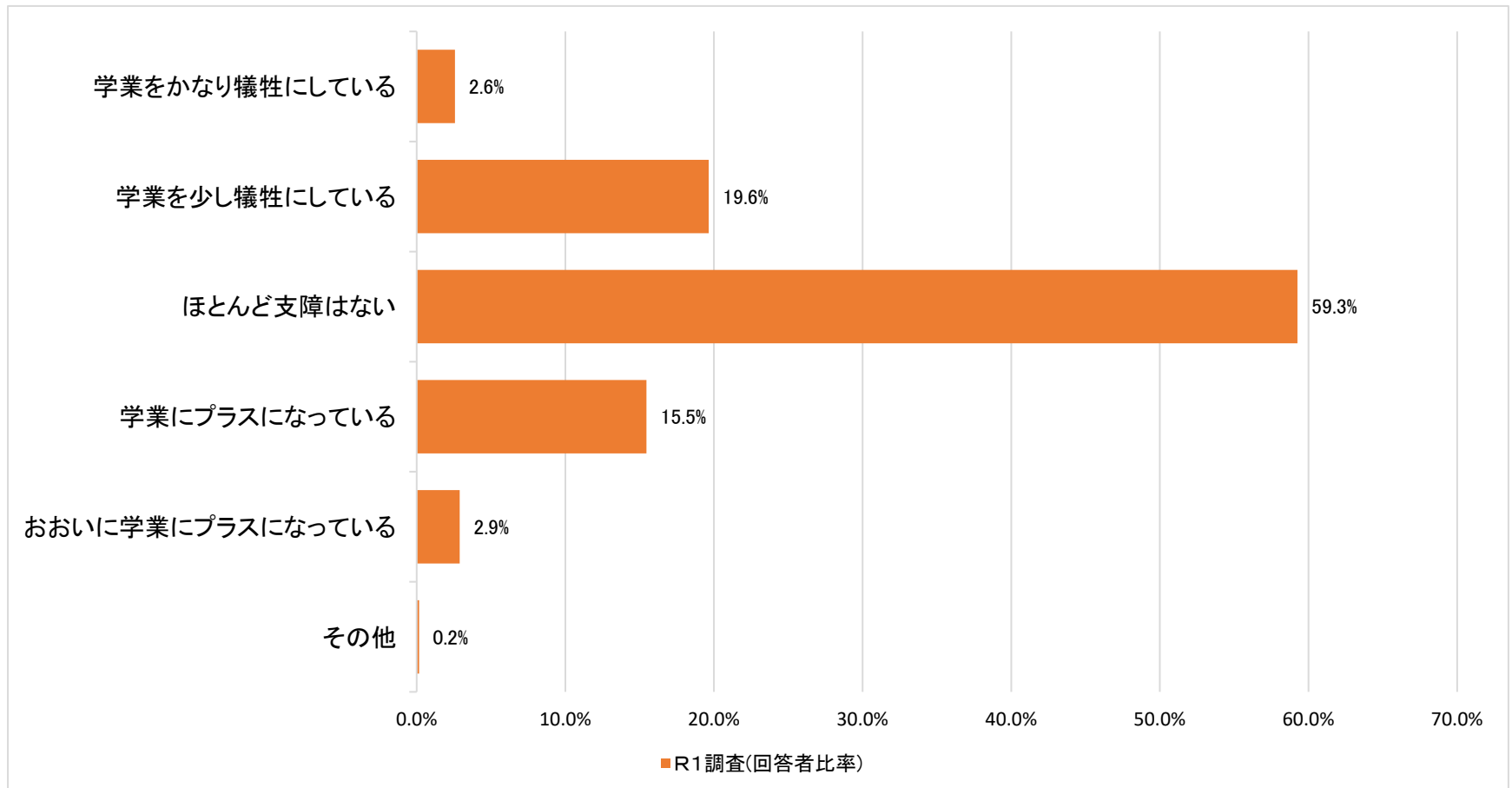
Q6 1週間に何日クラブ・サークル活動をしていますか。

7割以上の学生が1週間当たり2～3日以内の活動を行っており、以前より少なくなっている傾向がある。後にも出てくる学業との両立などとも関係していると思われるが、過度にクラブ・サークル活動に時間を費やす学生は減ってきたと考えられる。



Q7 自身におけるクラブ・サークルと学業との関係

半分以上の学生が、学業との両立に支障はないと答えている一方、わずかではあるが学業をかなり犠牲にしている学生も存在している。正課外活動である以上、学業を犠牲にするのではなく、学業にも良い影響を与える形での参加を促していく必要があると考えられる。



Q8 クラブ・サークル活動をしていない主な理由

課外活動への不参加学生はやりたい活動を行うサークルがないという理由が多く、多様化を補えるだけの活動が行われているとは考えにくい。

両立しないと考えている学生が3割以上もいることから、クラブ・サークル活動のイメージも古いもので依然伝わっている可能性も考えられる。また、遠距離通学を理由に挙げる学生は若干ながら増えてきており、本学に通う学生の多様化が伺える。

